

災害に強いまちづくり おいしい防災塾による地域コミュニティの基盤強化

西谷 真弓
(一社)おいしい防災塾

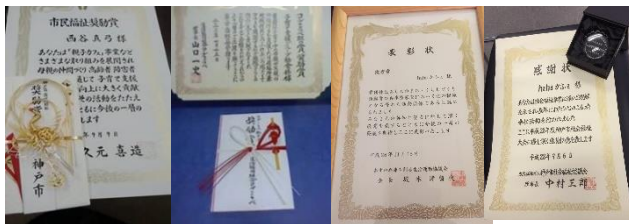
1. 活動紹介

震災を経験した神戸の母親だからこそ過度な怖さを与えずに防災意識を子ども達にもたせたい。その為にお菓子を使ったワークショップを交えた防災講座をしている。発端は、阪神淡路大震災の際、救援物資の中に子どもたちの心を癒すことができるお菓子がなかったことだ。慣れ親しんだお菓子で子どもたちが楽しみながらポシェットを作ることで、災害時の保存食とすることができる。そして、お菓子の賞味期限が近づいたら家族と防災について語りながら食べることで、再度、防災の意識を啓発することができる。

2. 社会的意義

一般社団法人発足以前は地域密着型子育て支援団体として、神戸市垂水区を拠点に子供を中心に異世代交流事業を展開。乳幼児、中高生、高齢者、すべての世代を繋げ、子供が暮らしやすいまちづくりを実施。多数表彰された実績を持つことができた。

その実績から、おいしい防災塾でも、地域コミュニティ基盤を強化する為、異世代を繋げる事を目標に展開している。



3. 目的

防災意識を子ども達にもたせる活動を通して、異世代を繋げ、地域コミュニティを強化することで、災害に強いまちを作ること。

参加者だけでなく、関わったすべての人(主催者、ボランティア)が知らず知らずのうちに災害、防災に関して興味を持つこと。

4. 方法

個包装されたスナック菓子でポシェットの袋部分を作り、アメで肩ひもを作る。テープで貼りあわせ、マスキングテープと色画用紙

で装飾する。そしてこの“お菓子ポシェット”を子どもたち一人一人の防災グッズとする。作り方は簡単なので、老若男女問わず子どもたちがポシェットを作る手伝いをボランティアとして依頼する。

5. 結果

お菓子は避難所で食べるために置いておくとして答えてくれた2歳の子や、すぐにポシェットのお菓子を食べてしまったのに約束を守っていますと後日お手紙をつづってくれた保護者など、小さな子どもにも防災意識を育てることができた。そして、保護者にとってはこれを機会に子供と一緒に災害の時の備蓄をそろえたいと思う、と防災へ行動するきっかけの一つとなった。一方、ボランティアをする側もお菓子ポシェット作りを楽しみながら災害時の保存食についての防災意識を高めることができた。

隣近所に住む者も知らない昨今、活動を通して地域で顔見知りが増えた。参加した小学生と保護者は様々な世代の地域住民と相互が触れ合い、繋がる事ができた。高校生のボランティア対しては、参加した親子は彼らが通う地域の高校に興味を持ち、一方で高校生は小学生とその保護者と繋がる事で自身が親になる将来像を持つことができた。



6. 今後の課題

高校生の活動がコロナ禍により制限され激減していること。手伝いを依頼することができる教育機関や団体が限られること。継続的に参加者と関わりたいが、ほとんどが年に1回または1回限りの講座で終わることである。